

小林英夫教授略歴

(大正11年2月15日生)

- 昭和17年9月 明治専門学校採炭工学科卒業
 昭和20年9月 北海道帝国大学理学部地質学鉱物学科卒業
 昭和21年3月 北海道帝国大学助手(理学部)
 昭和25年3月 北海道大学助教授(理学部)
 昭和31年7月 地下資源開発計画調査委員(北海道開発局)
 昭和32年4月 科学史研究連絡委員会委員(日本学術会議)
 昭和35年4月 大学院理学研究科地質学鉱物学専攻授業担当
 " 7月 地下資源開発調査員(北海道開発局)
 昭和36年2月 理学博士の学位を受く(北海道大学)
 昭和38年4月 北海道大学大学院理学研究科担当
 昭和41年5月 北海道大学教授(理学部)
 昭和43年11月 帯広畜産大学畜産学部講師(兼任)
 昭和44年7月 帯広畜産大学畜産学部講師(兼任)
 昭和44年7月 北海道大学教養部長事務代理(期間 昭和44年7月21日～8月9日)
 昭和45年3月 フィンランド国へ出張(フィンランド地質調査所, 期間 昭和45年3月19日～46年3月18日)
 昭和46年5月 新潟大学理学部講師(兼任)
 昭和49年4月 島根大学教授(文理学部)
 昭和52年5月 島根大学評議員
 昭和53年6月 島根大学教授(理学部)
 昭和54年5月 桜井賞受賞(加納輝石の発見命名により)
 昭和54年6月 島根大学理学部厚生補導長
 昭和55年6月 島根大学評議員
 昭和57年4月 島根大学理学部長
 昭和60年3月 定年退職
 島根大学名誉教授の称号を受く

小林英夫教授の主な研究論文及び著書

- 1951 飛驒変成帯の研究 (その1), 宇奈月附近の変成岩, 特に含十字石岩に就いて, 地質学雑誌, 57 卷
- 1952 地質学的時計, 新生代の研究, 14 号
- 地質学史 (地学叢書, 4), 地学団体研究会
- 1953 飛驒変成帯の研究 (その2), 岐阜県吉城郡坂上地域にみられる塩基性岩類と星雲状花崗岩, 北海道地質要報
- 1954 火成岩成因論に対する私たちの見解と疑問 (I), 岩石成因論の歴史的背景 (舟橋三男, 木崎甲子郎と共著), 地球科学, 16 号
- 火成岩成因論に対する私たちの見解と疑問 (II), Bowenism の根拠と限界 (木崎甲子郎と共著), 地球科学, 17 号
- 地学史 (科学史大系8) (岡 邦雄と共著), 中教出版
- 自然科学の名著 (湯浅光朝と共著), 毎日新聞社
- 構造地質学の発展史, 地球科学, 18 号
- 最近の「地質年代決定委員会」の業績の紹介, 地質学雑誌, 60 卷
- On the cummingtonite plagioclase rock of the Koshimizu district, Toyama Prefecture. (Studies on the Hida metamorphic rocks 3). Journal of the Faculty of Science, Hokkaido Univ., Ser. IV, Vol. 8
- 1955 編年について, 地球科学, 21 号
- 地質学史に関する二, 三の問題, 科学史研究
- 1956 飛驒変成帯の研究 (その4), 岐阜県吉城郡坂上村岸奥に見られる石灰岩の交代変成作用, 地質学雑誌, 61 卷
- 飛驒変成帯北縁の八尾町南方に分布する花崗岩類の構造, (成田英吉, 山田敬一, 鈴木 守, 平井喜郎, 春日井 昭, 青木 斌, 長谷川 潔と共著), 地質学雑誌, 62 卷
- 1957 飛驒変成帯にみられる花崗岩化作用の一形式, 地球科学, 35 号
- 1958 飛驒変成帯, 鈴木 醇教授還暦記念論文集
- 1960 日高国アポイ岳橄欖岩体調査報告 (原田準平, 舟橋三男と共著), 北海道開発庁
- 1961 日高村岩内橄欖岩体調査報告 (舟橋三男と共著), 北海道開発庁
- 1962 飛驒片麻岩類, 飛驒山地の地質研究会
- 1964 佐久間湖周辺の領家変成帯の地質構造, 中部地方領家変成帯の構造 — 第1部 — (太田昌秀と共著), 地質学雑誌, 70 卷
- 1965 中部地方領家帯全般の地質構造, 中部地方領家帯の構造 — 第2部 — (太田昌秀と共著), 地質学雑誌, 71 卷
- 1967 先カンブリア紀, 地球科学, 90 号
- 1968 鉱物共生の物理化学 (D. S. コルジンスキー著, 端山好和と共訳), ラティス
- 1969 地質学の方法, 青木書店
- 1972 Some notes on orbicular rock. Journal of the Faculty of Science, Hokkaido Univ., Ser. IV, Vol. 15
- 1975 北海道檜山郡熊石村館平の変成岩 (I), 珪岩, 珪質粘板岩, 粘板岩および輝緑岩を源岩とする変成岩について, 島根大学文理学部紀要, 理学科篇, 8 卷
- 島根県益田市北東川下附近の玄武岩とその包有物について (飯泉 滋, 渡辺勝美と共著), 島根大学文理学部紀要, 理学科篇, 9 卷
- J. J. ゼーダーホルムの足跡を訪ねて, 地球科学, 29 卷3号, 4号, 5号

- 1977 Kanoite, $(\text{Mn}^{2+}\text{Mg})_2 [\text{Si}_2\text{O}_6]$, a new clinopyroxene in the metamorphic rock from Tatehira Oshima peninsula, Hokkaido, Japan. Jour. Geol. Soc. Japan, Vol. 83
- 北海道檜山郡熊石村館平の変成岩 (II), Kanoite の共生関係, 島根大学文理学部紀要 理学科篇, 11 卷
- 1979 アジア大陸東北部の基盤岩類. 加納 博教授記念論文集
- 江津北東部の変塩基性岩中の RODINGITE. 島根大学理学部紀要, 13 卷
- 1981 珪酸塩岩石主成分元素の蛍光 X 線による全自動分析 (渡辺暉夫, 飯泉 滋と共著). 島根大学理学部紀要, 15 卷
- 1982 島根県美都町北東部の三郡変成岩中のアルカリ角閃石の産状と共生関係 (渡辺暉夫, 安達 浩と共著). 島根大学理学部紀要, 16 卷
- William Smith の業績とその社会的背景. 島根大学地質学研究報告, 第 1 号
- 根雨花崗岩体——山陰帯におけるバソリスの研究 (その 1) —— (飯泉 滋ほか山陰バソリス研究グループと共著). 地質学雑誌, 88 卷
- 1983 Lawsonite from quartzofeldspathic schist in the Sangun metamorphic belt, Shikuma, Shimane Prefecture (with WATANABE, T. and SENGAN, H.). Mem. Fac. Sci., Shimane Univ., 17
- Lawsonite in pelitic schists from the Sanbagawa belt and heterogeneity in X_{CO_2} in pelitic schists during the metamorphism (with WATANABE, T.) Extended Abstracts WRI-4 (Misasa, Japan)
- 1984 Occurrence of lawsonite in pelitic schists from the Sanbagawa metamorphic belt, central Japan (with WATANABE, T.). Jour. Metamorphic Geology, Vol. 2